

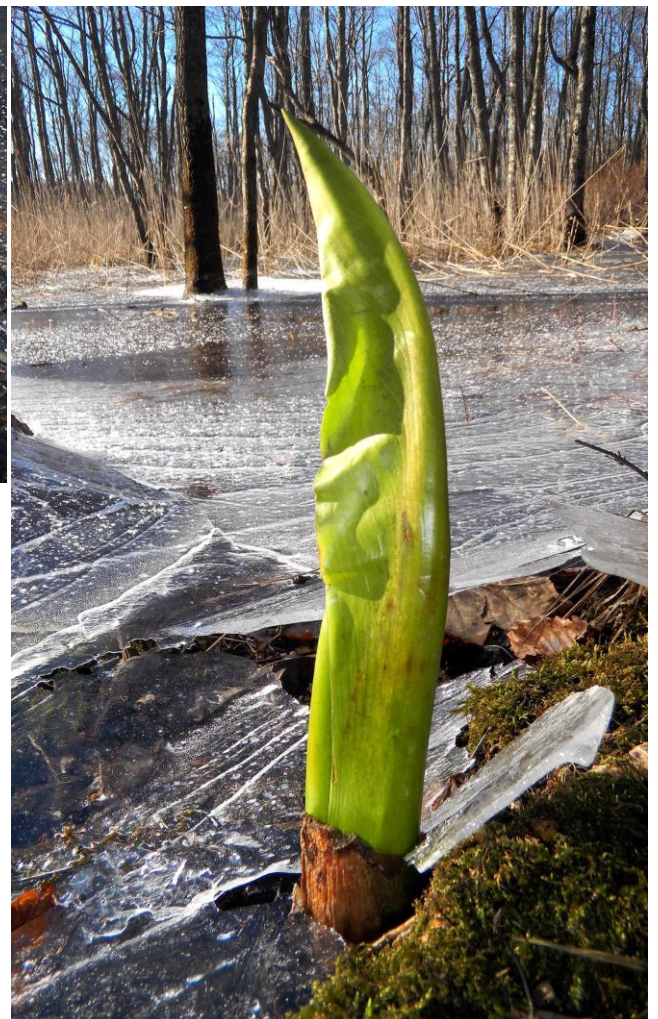
月刊 やちまなこ

2013.12.15 発行

No. 193

12 月号

釧路湿原国立公園 塘路湖エコミュージアムセンター（あるこっと）だより



雪が降った日、近くにある展望台へ行くと、落ち葉がたくさん積っていた道も雪に覆われ、白く蛇行した道にはキタキツネの足跡が点々と残っていた。人影のない展望台上空をオオワシがゆっくりと回転しながら飛んでいて、近くの雑木林ではヒヨドリの鳴き声が賑やかに聞こえた。いつもなら氷が張っている塘路湖は満々と水を湛えている。師走半ばを過ぎ、湖畔沿いの路上を車が列になり、行き交っていた。

コッタロ川と湿原のほとりから

162 12月のコッタロ湿原便り

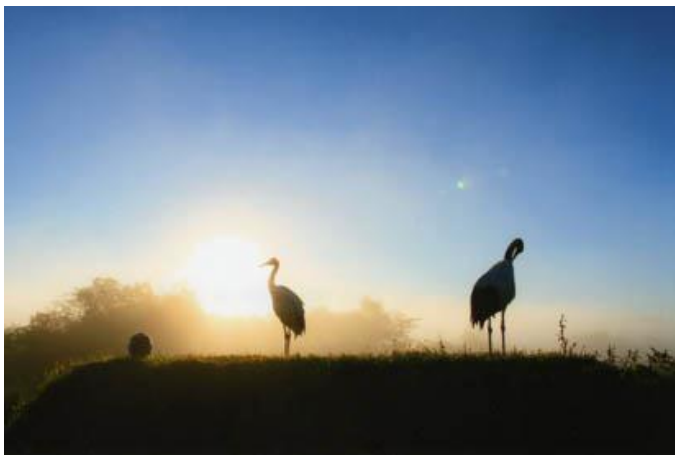
コッタロ在住・中本 アキ子(文) 中本 民三(写真)

日の出と共に霧氷の華がまばゆい中、埤から飛来してくつろぐ丹頂の親子三羽を眺めることから始まる一日を共感して頂ければ幸いです。日が昇ってわずかに大地を覆った1cm足らずの雪がとけると、そろりそろり山からお出ましの北狐のキャンシーが庭の「ツル池」に接近し過ぎて大騒ぎ。お互い大口を開いて威嚇し合い、今まさに丹頂が蹴りを入れようとした瞬間を撮ったものですが、その前にびびってしまったキャンシーが、すごすごと頭を低くして退散し、一件落着。

ところで、今季ほど家雀の多さが目立つ年も珍しく、年々減少している酪農家との反比例に、何かしら奇妙な印象を抱かずにいられません。一軒の農家にはほぼ300羽とも400羽とも云われる雀がいて牛のエサのおこぼれにあずかっているのですから。我家の100羽余りの集団は勿論、丹頂のエサが目当てで、連日右往左往しては時折、骨休めに庭の立ち木を利用し“枯木にて花盛りかな群雀”となるのです。

さて、月の出も早いこの時季、埤へ帰る前のひととき丹頂一家を炎の様な雲が一瞬の色彩を輝かせて染め上げ、黄金色から朱へ、紫からうす桃色へと変じる夕暮れは、この世のものとも思われず、光の帯をまるで空の高みから「神話の夢」でも見ているような錯覚に陥らせてしまうのも無理からぬことではないでしょうか。

惜しむらくは、暖冬を予感させる冬の入口での目まぐるしい気象現象が二転三転しているうちに、三度の正直なるか？に思えた「根雪」になる程の積雪もなく、わくわくし乍ら用意したクロカンスキーも、しばらくお預けとなってしまったことでしょう。それでも全てに感謝して！どうぞよいお年を！！



湿原の住人たち その153

シメ

小鳥たちの食べ物不足の季節になり、庭に小鳥のための餌台を設置したご家庭も多いのではないでしょうか。積雪期の1～3月は、あるこっとの餌台にもヒマワリの種やアワ、ヒエなどを用意します。写真は餌台に来る鳥の1種で、ヒマワリのタネが大好きなシメです。ずんぐりした体形、短めの尾が印象的です。常連のカラ類を蹴散らすように占拠して、太くて強いくちばしを上手に使って種を割り、殻を飛ばします。雄は眼のまわりの黒さも相まって、ニックネームを付けるなら「ギャング」というのもいいでしょう！？鳥の種類によって餌の食べ方が違うので、餌台に来る鳥をじっくり見ながら愛称を考えるのも面白いですよ。



自然の恵みでツリー作り

12月7日（11時～3時）にあるこっとレクチャールームで「松ぼっくりでツリーを作ろう」を行いました。町内で集めたドイツトウヒやアカエゾマツ、エゾマツ、カラマツなどの松ぼっくりとグルーガンを使って高さ約40cmのツリーを作りました。最初の1時間は見本を見ながら同じ工程を進め、その後は参加者が素材を自由に組み合わせて作り、最後にハンノキの実やドングリ、オニグルミを表面に付け、クリスマスカラーの赤と緑のリボンを飾って完成させました。同じ目的で集まった人と交流しながら手作りの楽しさを体感し、完成の喜びを分かち合いました。（参加者8人）



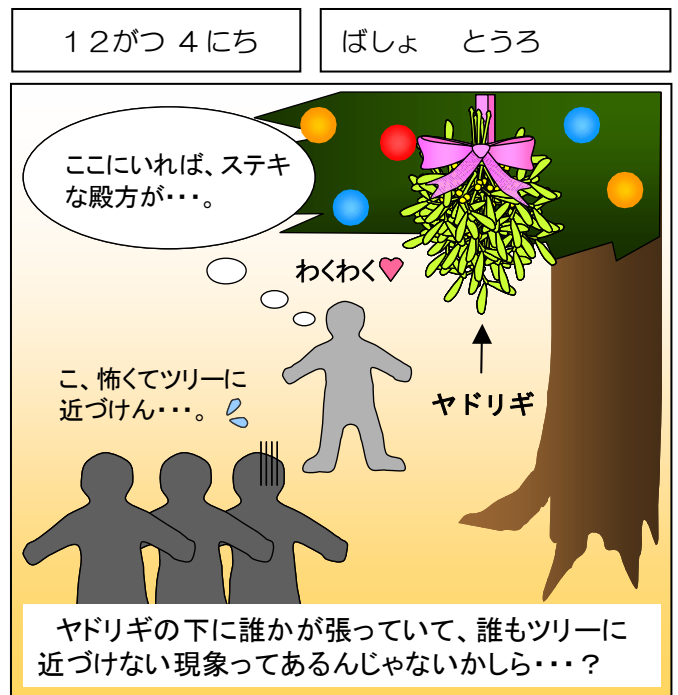
ネムネムのとうろうろうろ日記 Vol.46「クリスマスツリーとヤドリギ」

郷土館には様々なお問い合わせがあります。今回のお問い合わせは学校の先生から。「ALTの先生（海外から来ている英語の先生）がクリスマスツリーにヤドリギを使いたいといっているのですが、手に入りますか？」

ヤドリギはちょっとした山に行けばけっこう目にしますが、高い木の枝先に生えています。どこでどうやって採るか、なかなか難しい問題です。同じ町内にある京都大学の研究林にご相談したところ、職員さんがご厚意で採ってきて下さることになりました（いったいどんな技術を使って採ったのか、見てみたかったです）。

ALTの先生との仲立ちをしている先生が、なぜヤドリギが必要なのか首をかしげていたので、海外ではツリーにヤドリギを下げる風習があり、「ヤドリギの下にいる女性にチュー出来る（キスをしなくてはならない）んですよ。」と説明したら、「それって、なくちゃダメじゃない！」突然気合の入ったお返事が。「辻さんの口から『チュー』なんて言葉、初めて聞いたわ。」と先生から話を聞いた周りの人も一緒になって「辻さん、がんばるのよ！」とあらぬ期待をされています・・・。

辻 ねむ（標茶町郷土館学芸員）



各行事とも事前の申込が必要です

〔日時〕 1 / 1 1 (土) 10 : 00 ~ 12 : 00

[定員・参加料] 15名、100円

〔場所〕 塘路湖エコミュージアムセンターレクチャールーム

〔持ち物〕 凧に描きたい絵柄や図案、凧揚げをする時の防寒具、防寒靴、帽子、手袋

♪ ♪ ♪ ♪ ♪ ♪ ♪ ♪ ♪ ♪ ♪ 申し込み問い合わせは 塘路湖エコミュージアムセンターまで TEL 015-487-3003

[日時] 1/19 (日) 10:00~12:00

 申し込み問い合わせは 温根内ビジターセンターまで TEL 0154-65-2323

【その他】(11/18)クロスズメバチの女王. キタキツネ (11/22)エゾタヌキの死骸. エゾシカ (11/25)ミンクの死骸 (12/12)エゾリス

休館日：毎週水曜日 12月29日～1月3日 入館無料